

(公社) 日本設計工学会 主催
 2017年度日本設計工学会第4回講習会
 『幾何公差の基礎 —今からでも間に合う初心者のための幾何公差—』
 日本機械学会・精密工学会 協賛

開催日：2017年10月14日(土)，申込締切：2017年9月15日(金)

開催趣旨

ものづくりにおいて、設計者が設計意図を製造現場に伝えるために、図面を正確に表現することはとても重要です。近年、グローバルなものづくりが展開されるようになってからは、製品の高品質化、高精度化がさらに要求されてきました。また、設計および製造期間の短縮やコストダウンも求められており、設計者はグローバルなものづくりに対応できる図面作りが求められています。世界の製図規則は、ISO (JIS) による国際規格と ASME (米国機械学会) による米国規則に大別されています。幾何公差が寸法公差に比べ設計意図を十分に表現できる有効な手段であるということで、世界の主な製造業、米国や欧州、航空機・自動車業界は「幾何公差表示方式(JIS B 0021)」を採用しているということもあり、ISO 及び ASME も幾何公差表示方式中心の製図規則が主流になっています。しかし、日本では「寸法公差方式」を主体としてものづくりが発展してきた経緯があり、あいまいさのない図面を作成するために幾何公差の必要性を理解していても、幾何公差を修得するのは大変なのではないかとお考えになられる技術者の方々も多くいらっしゃると思います。

本講習会では、「幾何公差の基礎」と題し、幾何公差を身につけていただくための基礎となる知識をしっかりと固めていただけるような内容を一日に集約いたしました。これから本格的に幾何公差を身につけようとする大学・高専の学生、3DCAD を設計ツールとして活用する設計者、3D データをものづくりに活用しようとしている技術者の皆様に非常に役立つ内容となっております。是非ご参加いただき、幾何公差をご活用するきっかけになれば幸いです。心よりお待ちしております。

日時：2017年10月14日(土) 10:00~17:00

会場：関東学院大学 関内メディアセンター (横浜メディアビジネスセンター8階)

(〒231-0011 横浜市中区太田町 2-23) (詳細は学会事業部会サイトからダウンロードしてください)

司会：高橋 俊昭 (3D+1 ラボ、3D-DTPD 基本情報に関する JIS 開発委員会 WG 委員)

時間	題目	内容	講師
10:00~10:10	開催挨拶	日本設計工学会 事業部会長 慶応義塾大学 教授 松岡 由幸	
10:10~12:00	幾何公差のための基礎	JIS/ISO/ASME の概要、形体とデータム・データム系とその使い方、JIS 普通幾何公差の特徴 等について解説します。	3D+1 ラボ 高橋 俊昭
13:00~15:00	幾何公差の通常の使い方・表し方	寸法公差と幾何公差の違い、幾何公差で使われる用語と種類、その使い方と表し方について 図面指示例をもとに解説します。特に位置度と輪郭度については 詳しく解説します。	想図研 小池 忠男
15:10~17:00	幾何公差の特別な使い方・表し方	幾何公差の有効性を特に発揮できる 最大実体公差方式、複合位置度公差方式、複合輪郭度公差方式、突出公差域、非剛性部品の使い方と表し方を解説します。	同上

定員：40名 定員になり次第締め切ります。

参加費：正会員 8,000 円、非会員 10,000 円、学生会員 2,000 円、学生非会員 3,000 円 (協賛学会会員は会員価格)

申込方法：氏名、所属、連絡先、講習会名を記入の上、FAX または E-Mail にて (公社) 日本設計工学会 事務局宛にお申し込みください。

申込先：(公社) 日本設計工学会

〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-22-17 セラミックビル内、電話 03-5348-6301、FAX 03-5348-6280、

E-Mail : jimukyoku@jsde.or.jp URL: <http://www.jsde.or.jp/>

次のサイトからでも申し込み可能：http://www.jsde.or.jp/htdocs/?page_id=108